表題(14pt)

－副題－(10.5pt)

※研究報告の場合

キーワード：(9pt)

◯発表者名　共同研究者名(9pt)

所属施設名(9pt)

【はじめに】

・研究の背景

・研究の動機、意義

・文献検討の結果

・この研究により何を明らかにしようとして

いるか

【目的】

※必要時、用語の定義を入れる

【方法】

・対象者

・調査期間

・データ収集方法

・収集するデータ項目

　　基本データ項目および本研究の目的の

ためのデータ項目

・介入方法（該当する場合）

・データの分析方法

【倫理的配慮】

（例）A病院倫理委員会の承認を得て行った。対象者には、研究の趣旨、参加は自由意思であること、途中辞退も可能であること、参加の同意が得られない場合や途中辞退による不利益はないことを説明した。データは研究成果を公表したのちに破棄し、研究成果は個人が特定されないように処理をして学会などで公表すること説明した。全てを口頭と文書で説明した後に研究参加の同意を自筆で得た。本研究に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

※本研究を考慮した倫理的配慮を加える。

※参加の同意は必ずしも自筆によらなくてもよい。例えば、アンケートならば同意欄を作成し、チェックがあれば、同意したものとみなすなど。

【結果】

注意点：目的に照らし合わせて、目的を見失わないようにする

・対象者の概要（属性や基本的な情報）

＜質的研究＞

・抽出されたカテゴリやテーマを用い、全体像を説明する

・それぞれのカテゴリやテーマごとの内容を詳細に記述する

・インタビューの内容や観察したデータを引用して説明する

＜量的研究＞

・主要な項目の記述統計（頻度、平均値と標準偏差など）

・分析方法に対応する方法で示したデータ分析の結果

図表などを活用して上記をわかりやすく示すようにする（図のタイトルは図の下、表のタイトルは表の下に入れ、中央揃えとする）

図1　タイトル

表1　タイトル（ｎ＝22）

【考察】

注意点：結果で記述していない内容を考察で述べることはできない

・結果の要約

・結果の解釈

　（得られた結果からの客観的解釈）

　（他文献との比較）

・上記を踏まえた研究者の意見

・解釈した結果を看護にどう生かすか

・研究の限界と今後の課題

【結論】

注意点：本文で記述していない内容を結論で述べることはできない

・本研究結果の知見とその意義

引用文献

1）福島花子,郡山太郎,本町一子,他：看護の○○○研究,第○回日本看護学会論文集（看護管理）,p.5-8,2008.

・記載方法は集録原稿作成要領を必ず確認す

　る

・参考文献の記載は必要ない

※福島県各支部の学会・研究会で発表された演題には以下の文を入れる。

本研究は、第〇回○○支部看護研究会で発表されたものである。